

# 土壁塗り大はしやぎ

久保泉小

佐賀市

久保泉小の1、2年生が4日、学校近くの久保泉第2工業団地の建築現場で、昔ながらの土壁塗りに挑戦した。ヘルメットに長靴の「一日左官」になった子どもたちは泥んこになりながら、建物の柱と柱の間に泥団子を練り込み、伝統的な和風建築の知恵を学んだ。

## 児童が「一日左官」



土を柱の隙間に力強く練り込む子どもたち—佐賀市の久保泉第2工業団地

## ヘルメット、長靴姿で挑戦

作業をしたのは、佐賀市の業務用アンテナメーカー「サガ電子工業」（小柳謙治社長）が建設している日本家屋風の工場。伝統的な在来工法の土壁塗りは職人でなくともできる作業で、かつては家建新築する際、近所総出で手伝う光景が見られた。こうした昔ながらの助け合いと環境にも優しい日本家屋の良さを知ってもらおうと、同社が小学校に呼び掛けた。

県内で採れた赤土にわらを練り込み半年間発酵させた土を使用。子どもたち53人は、木の骨組みと竹格子でできた幅13びと4びの2枚の壁に、自分たちの手の届く高さまで、泥団子を練り込んでいった。独特の土の感触に大はしやぎしながらも「おうちができたまま来たたい」と完成を楽しみにしていた。

子どもたちが塗った土壁は乾燥させた後、何度か上塗りを行い、しっかりと固める。携帯電話などのアンテナを製造する工場として来年2月に完成の予定。（山口昌寛）